

東海大2位



2位でゴールする東海大のアンカー・川端千都

17秒差守れず無念

東海大は8区の川端が神奈川大の鈴木健とのアンカー勝負で屈し、14大会ぶりの優勝を逃した。川端は17秒のリードを守れず「鈴木を意識していたし、強い彼に勝ってこそ日本一と思っていたが…」と唇をかんだ。

6区の国行で一度は先頭に立ち、出雲駅伝に続く優勝への期待が膨らむ展開だった。両角監督は無念さをにじませ「力がついてきているが、そんなにうまくはいかない。また仕切り直して挑戦します」と力なく話した。



青学大3位

3位でゴールし、苦しそうな表情を見せる青学大のアンカー・鈴木健人

1区の出遅れ響く

2連覇を狙った青学大は優勝争いにも絡めず、3位に終わった。1区の中村が先頭に1分22秒も離れたのが響き、3位でたすきを受けた5区のエース下田も走りに精彩を欠いて順位を一つ下げた。原監督は「1区の出遅れが後ろにプレッシャーをかけた」と敗因を挙げた。

10月の出雲駅伝では東海大に優勝をさらわれ「大学三大駅伝」のうち二つを終えてまだタイトルを手にしていない。監督はレースを総括するうちに徐々に悔しさが増してきたようで「だんだん腹が立ってきたし、闘志が湧いてきた。これで終わるチームではない」と箱根駅伝での巻き返しを期した。

序盤でリード奪えず

【駒澤大】〇…1区に片西、2区に工藤と実力者を配置した駒大は、序盤でリードを奪えなかった。5位で出た6区の堀合が区間賞をマークしたが、

先頭争いに加わるころまではいかなかった。

大八木監督は「もうちょっと2区が頑張ってくれたら」と悔しそう。箱根駅伝へ向けて気持ちを切り替え「アップダウンを含めた走り込みをしっかりとやっ

て、対策をしていく」と前を向いた。

選手層の薄さ出た

【駒澤大】〇…東洋大は1区の相沢が味方を勢いづけた。「しっかり流れをつくってつな

いでいこうと思った」と言う通り先頭に立ち、2大会ぶりの優勝に向けて順調にトップでリレーした。だが、6区の浅井が区間16位と息切れして4位に後退すると、巻き返す力は残っていなかった。

4区の山本は「選手層の薄さが出た」と敗因を挙げた。酒井監督は来年1月の箱根駅伝へ向けて飛び抜けた戦力を持つチームはないと分析し「5位だけど中身は良かったし、上を狙っていく」と意欲を口にした。

全日本大学駅伝

全日本大学駅伝は5日、名古屋市の熱田神宮から三重県伊勢市の伊勢神宮までの8区間106.8キロで27チーム（オープン参加2を含む）が出場して行われ、神奈川大が5

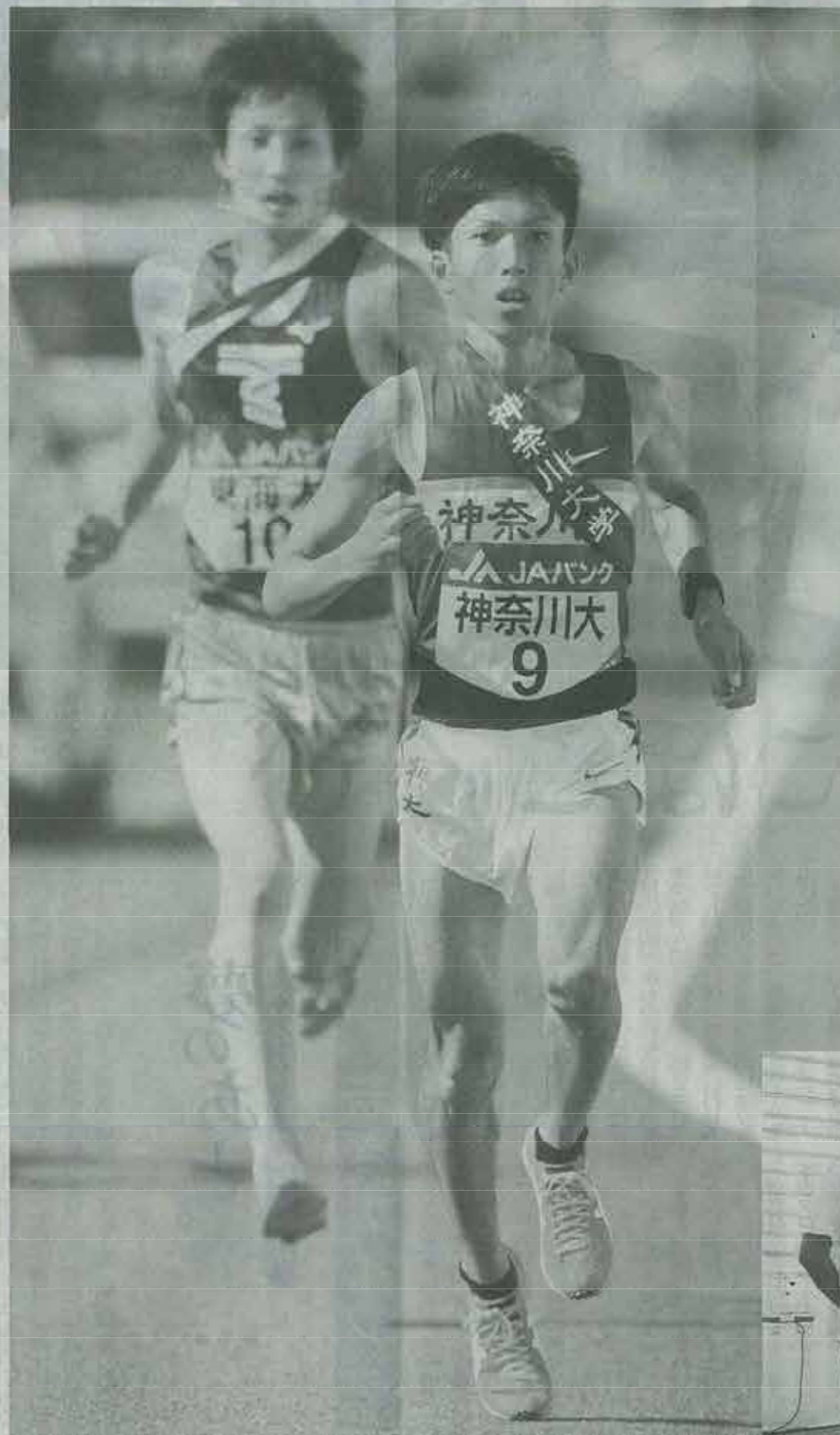
時間12分49秒で20年ぶり3度目の優勝を決めた。一本記1面に

10月の出雲全日本大学選抜駅伝を制した東海大が1分18秒差の2位。前回覇者で1

月の東京箱根間往復大学駅伝で総合3連覇を達成した青学大は3位だった。

神奈川大は5区の越川堅太が区間賞となる好走で2位に浮上。8区は鈴木健吾が首位東海大との17秒差を逆転した。4位の駒大、5位の東洋大、6位の中央学院大までが来年のシード権を得た。

アンカー勝負で逆転



「百点満点」笑顔はじけ

①神奈川大（山藤、大塚、萩野、鈴木祐、越川、安田、大川、鈴木健）5時間12分49秒②東海大5時間14分7秒③青学大5時間15分22秒④駒大5時間15分59秒⑤東洋大5時間16分29秒⑥中央学院大5時間17分59秒
（神奈川大は20年ぶり3度目の優勝）
【区間記録】
▽1区（14.6キロ）相沢晃（東洋大）43分24秒
▽2区（13.2キロ）田村和希（青学大）38分4秒
▽3区（9.5キロ）館沢孝次（東海大）27分2秒
▽4区（14.0キロ）吉良大（城西大）40分9秒
▽5区（11.6キロ）越川堅太（神奈川大）33分52秒
▽6区（12.3キロ）堀合大輔（駒大）35分57秒
▽7区（11.9キロ）阿部弘輝（明大）34分8秒
▽8区（19.7キロ）ドミニク・ニヤイロ（山梨学院大）57分6秒
◎全日本大学駅伝最近10年の優勝校
2008年 駒日早駒駒駒駒東青神
2009年 駒日早駒駒駒駒東青神
2010年 駒日早駒駒駒駒東青神
2011年 駒日早駒駒駒駒東青神
2012年 駒日早駒駒駒駒東青神
2013年 駒日早駒駒駒駒東青神
2014年 駒日早駒駒駒駒東青神
2015年 駒日早駒駒駒駒東青神
2016年 駒日早駒駒駒駒東青神
2017年 駒日早駒駒駒駒東青神

誰も崩れることなく、安定し、大後監督は「1区から7区まで走り、優勝に導いた。神奈川、どこまでやれるかが大事だった。百点満点と笑顔だった。序盤から先頭を追う展開で、さすがに涼しい顔で後続を突き放した。さすがに涼しい顔で後続を突き放した。」

も、焦らなかった。5区の越川した。今季は3月の日本学生ハが区間賞の走りで4位から2位1フマロン選手権を1時間1まで順位を上げるとトップの東分36秒の大会記録で優勝。8月のユニバーシアード夏季大会は「気持ちが高ぶった。自分、ハーフマロン3位だった実力者にとり、抜くのは十分な秒差だった。」



タイムがプリントされたTシャツを着てポーズをとる神奈川大の大後栄治監督（左端）と選手たち。5時間12分49秒で20年ぶり3度目の優勝を果たした

8区で東海大・川端千都（後方）を抜きトップに立つ神奈川大のアンカー・鈴木健吾（代表撮影）

神大20年ぶり頂点

も、焦らなかった。5区の越川した。今季は3月の日本学生ハが区間賞の走りで4位から2位1フマロン選手権を1時間1まで順位を上げるとトップの東分36秒の大会記録で優勝。8月のユニバーシアード夏季大会は「気持ちが高ぶった。自分、ハーフマロン3位だった実力者にとり、抜くのは十分な秒差だった。」